

喰、間に飯を一箸づ、交せ可喰中の汁あらば、追膳の汁不可喰、又冷汁は交たる時ばかり些と吸て、其後不可吸、食にかけて喰べき汁也。

一あげやうは、先さきにまほをあげて飯を三箸喰、大汁一箸、汁をすはずして内の中もり、右の頭の左の前々内の中迄菜を喰とむべし、飯をくひ、向の中々左の頭右の中、扱二の膳の中もりにて喰留べし、又食を三箸くひ、追膳の中盛右頭より左の中、扱本膳の手本にて喰納め、冷汁あらば手をかけて可喰、一へんの喰様如此、半分の時、三の膳上の左の頭に箸そへ、飯に手をつけて右の頭の菜を喰、其後三の膳に手をつくる事なし。

〔家中竹馬記〕一肴を食時、先しるをすふて、扱食人多く有間鋪事なり、さかな持上て食て後、貴人の前を見合て可置、後も汁をすふ事よろしからず、肴置て後は、更又不可食、箸を置事は、貴人のをかゝる、を見合てをく也。

〔酌并記二〕一飯喰様の事、さい數いかほど有共、一番に真中に成物をくいて後は、いづれをくはんともま、なり、是も前に記すごとく、くひにくき物は、くはぬが能也、二三のしる有とも餘に手とを成をば、およびごしにくふはわろし、略下

〔禮容筆粹七〕飯喰やうの事

かよひ膳をことくくすへ渡し、よき時分に相伴人上座にむかい手をつき、卒度御箸をと申べし、其時上客椀のふたを御取あるべし、其時座中一度に喰初る也、其次第は先右の手にてはしを取なをし、飯椀のふたを取左にわたし、又右にて汁わんのふたを取左に持たる飯椀のふたにかさねて左の脇に置、右にて飯を取あげ、左にわたし、少宛二はし喰、又右にて汁椀を取あげ、左にわたし、汁ばかりを一口すひ、右に渡し下に置、又右にてめし椀を取あげ、二はし喰下に置、汁椀を取あげ、汁を吸躬をくい下に置、已上二度也、扱三度めからは、左にてめしわんを取上、二はし計くい、